

「やっほ落ち着くわ♡涼平とてんや...
んても...ちよと変わった?」
「大学生になれば少しはね...夏南は...制服の
せいかもしれないけど変わらないな」
「マジっ...これでも大学で今までのように挑戦ひたすの
アタガ高校で回すっばい言ってたっや」
「...あれは夏南が授業サボったりしてたから...」

「可能性の為の挑戦
そして勉強...っひま?
まあ、おかげで涼平と
付き合っただけになった
大学行けたし...ちがっただけ」

「ん?」
「折角、涼平が
だっいすきなJKのコスプレ
してきてあげたんだし...
寂しい思いさせた分の埋め合わせ...
シテもらひかな、んぶぶっ♡」
「っっ...♡か...夏南」

「コメン...俺も一緒のと「行きたかったけど...」
「いいや、涼平は目標あるんだし...休みには
っひまっっ合っつてんだから...でも、そっだな」

ちよ

「……ふふ♡」

「やっぱり涼平……だよね……」

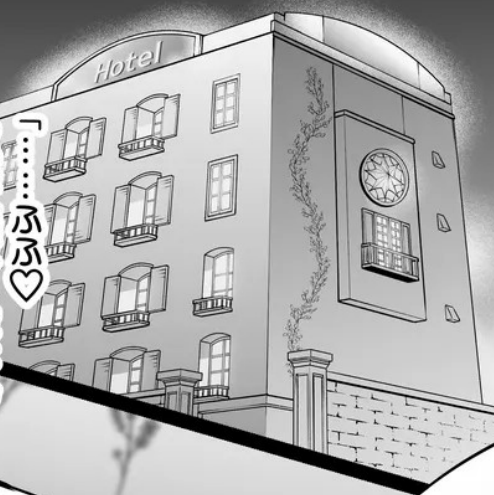
「マジで好きだよ……涼平♡」

「夏南……」

「俺も……愛してる♡」

「……ごん……♡」

「ふふっ♡
よかった……」



いつもは強気なギャルの夏南が見せる可愛らしい笑みにいつもドキリとさせられる……だけど——

「……」

「夏南……もしかして何か悩みがあるんじゃないか？」

「えっ……わかんないけど……」

「……頼りにならないかも……」

「……」

「……」

「……」

「……」

「大げさだなあ……大ひた
悩みひやないから……
……でもチヨ……嬉しいよ……
涼平♡」

その時みせた笑顔は今までと何か違って……

——その日から夏南とは連絡がつかなくなつた……
夏南の大学に行つても、ほとんど会うことが出来ず
大学の人間に聞いても余り学校に来ていないから
わからない……と……

ただ、夏南が所属していたサークルが
『アニメ研究部』で、そこで姫のような扱いを
受けて彼女もまんざらではなかつた……という話だ

正直、信じられない

高校時代はオタク文化に興味を示さなかつたし
クラスのおタク達にも、あたりが強かつた

俺の注意を聞いてくれるようになったら
色んな趣味を持つ人がいると理解しよう
オタク達にも優しくはなつていたが……

そして連絡がつかなくなつて3ヶ月……
彼女の以前のギャル友から連絡がきて
『SNSの裏垢でコスプレしてエロ同人イベントに出てる』
という更に信じられない情報を聞き
調べてみると……彼女がイベントで出したであろう
DVDが既に2作品……しかも際どい……というか
俺にしかみせてなかつたと思つていた
体を惜しげもなく晒した画像が数多くあつた……

頭が混乱する中、俺は彼女の最新作が
データ配信されているのを確認すると、すぐに購入した

一縷の望みをかけ、映像を確認すると——

!?!?

はっはっはっ

ちんぽっ♡
ちんぽっ♡
ちんぽっ♡

「……今…カナ姫と
初コスホリでDVD完売記念の
打ち上げ会場に向かっていまーす
ボクの言った通り
スゴイ反響だったしょ！完売おめ」
「た…たしかにアンタの言の通りね
ん♡♡…ん♡♡…さっきからあんな
乳首い♡♡らだけ♡♡♡♡♡」

「くっ♡それより完売したら
何でも言う事聞いてくれるって
話だったんですけど…
ボクの彼女になってほしいな」

「言っただけ♡…ん♡♡
あの数、完売するなら
思ってたかっし…は♡♡♡
アタシには彼氏が…」
「でもボクのあげたチョーカー
彼氏と会ってる時もつけてたんでしょ？
それに彼女になってくれれば
またプロデュースしてあげるよ…
カナ姫も興奮したでしょ
エロコスイベでスケベな目で見られるの」
「ちよ♡…アソ♡…マン♡弄らないでよ♡…
今…触られたら…♡スィイベで
めっちゃんエロい気分♡
な♡♡のからあ…ひま♡♡♡
すく…イク♡…♡♡♡はあ♡♡♡」

—映像を見ても
信じられない…♡



「……ふもー…ヒロニスレイヤーの
かな…てす、イへの打ち上げ終わって
これからオタサリのメンバー達で
2枚目のDVD撮影…しま…すっん
…ここガッツキすぎ…」
「カナ姫えっ…うっ♡」

あ…♡
ヤ…♡

う…♡
ん…♡

「んてもヒロニスメの楽しさ
教えてくれたし体の相性は
いいのよねえ…んぶんぶん♡んぶん
ペロチューやばっ♡んぶん♡」

「ボクはカナ姫の全部が好きですよ
腋毛マン毛ポーポーな
オゲレツなところも愛してます、んぼっ♡」
「あ…愛してる♡カ♡」
それに無駄毛はファンタガ…めぶん♡♡」

おやうう…♡

—話しながら体を好きにされてる…
エツチが好き夏南だっただけど
こんな男達に性のオモチャの様に
扱われるなんて…絶対に
許さない人だったのに…

「はあはあ♡たまに抜いてあげてただけ
…んをい夢中になっ♡…P(プロチューサー)が
ちゅ♡二緒に住んで毎日
「スハメ♡したのファンタガ彼女たのめ♡カ
言い出すしい…ん♡」
オタクって、ちゅるいよねえ…ひ♡♡」

「わ、我々も…カナ姫に
ソッコンですぞっ!」

「めっ、そんなこと言いながら
アタシの体…ドスケベな玩具くらいい
じか思っかないの知ってるのよ
め、め、く、く、麗マ…V♥V」

「でも、こっぴやつてオタク達に
エロい目で見られるの…
大好きですよ♥カナ姫は」

「んぶぶのん せいがかい
だかの…エロDVDを売ってオナベツトに
のびたのには感謝してるから
アタシが大好きなオゲレツパロチユー
ヤッてあげる、れるれるる、んぶぶ
「おっし…はぐっ♥んぶぶっ♥」

「んぶぶのん せいがかい
だかの…エロDVDを売ってオナベツトに
のびたのには感謝してるから
アタシが大好きなオゲレツパロチユー
ヤッてあげる、れるれるる、んぶぶ
「おっし…はぐっ♥んぶぶっ♥」



「おおー！生ヤバッ！♡Pのチンポの
感觸が伝わって…おお♡んおお♡ひくー！
おお♡種付けプレスやべっ♡いくっ♡あぁー！
「うぐっ♡生を許してくれたってことは
恋人ってことでいいですよねぇ！カナ姫え！♡」

—他の男たちは精を出しつくしたのに
このPと呼ばれる男はまだ続ける気か…
しかも生で…夏南もそれを許して…
いや…これじゃまるで…

「いいっ♡恋人ていいからっ…
もっと子宮にPのチンポたたくっけっ！！
おお♡無責任射精で…まだっ…んあっ♡♡」

だっ♡なる♡
だっ♡なる♡
だっ♡なる♡

おっ♡スチ…♡
おっ♡スチ…♡
おっ♡スチ…♡

——もし、あれが本当の夏南なら……
俺は彼女を引き戻せるんだらうか……

前住んでいたマンションも引き払われ
連絡も全く取れず大学にも顔を出さなくなっていた

そして半年……彼女はエロコスプレイヤーとして
SNSでは相当有名になったらしい……
彼女のギャル友だった子達も
引き戻すのは諦めてしまった……

自分も……もう……
だから半年、見ていなかっただ彼女のオラパロ映像を
見てみることにした……
正直、前回は吐き気を催したが
まだ映像に彼女を引き戻せるヒントが
あるかもしれない……と……

……だが映したモニタには、もう戻すことが出来ないと
わかる画面が流れてた——

「……右手…赤…」

「んっ……余裕ねっ…」

「次……えくと…オマン」をA君のチンポ」

「んぶぶ♡やっこ来たわね…ホラホラ」

便姫カナのチンポに媚びマンズじまへん♡!!

んほ♡ほ♡♡

「おっ♡アハハハ
さすがウチの便姫っ
マンズリも
うまつ♡うっ♡
ユルマンより
こつちの方が
いいかも」

うっ♡うっ♡

「うほっ!あぐっ…あっ…」メメント!でちゃうっ…べっ♡」

「張り切ってますねカナ♡」

「そりゃさっぴゃ、チンポツイスターゲームに負けたら」

『お別れ』映像撮られる上に今撮影してるDVDの売り上げを全部
ファンタ達にもっていかれるとか…完全にATM兼オナホじゃない!

うっ♡

便姫♡

「なんですかこえー!
おらっ!!♡くらっ♡!
カナのデカ尻ピストン…んあっ♡!♡」

うっ♡

おっ♡

「ボク達3人を射精させれば
勝ちですから頑張っ♪
勝てば3日おあずけだった
チンポ…このあつ
ハメあげますから♡」
「えっ♡♡♡
やったっ♡…せっ…早く
ファンタも射精しなさいよ
…くんくん♡
3日ぶりの大好きなPの
チンポめ…はっ♡はっ♡はっ♡」

「……ほっ♡ほっ♡見てるよっ♡○○♡
もろ、知ってるかもしれないけど…
アタシ、草汰Pと…恋人になっこんの
んほっ♡ほっ♡…正直
こんな撮影したくないんだけど…
草汰の命令でさあ…ごめ〜ん♡
アタシがとれだけ草汰に
ソツマンなのか
アピールゴメン♡」

オタの
独占欲強〜っわ…
困るよね…
こんな風に
マンパのハート型
作のOHロマンス
の♡カカ…ほっ♡」

「こも…草汰のこと…マジで好きになっちゃった♡
だから草汰の頼みなら腋毛もマン毛…
ケツ毛だって伸ばすし…チン媚びダンスしながら
お別れ撮影しちゃおう♡」

「頭にパンツカぶせの
フタマネだの♡おめ♡の♡…
…♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡
それ♡の♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡
…本気で♡メン♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」



「うほぁ…♡まぁ♡やっほこのチンポの♡たまんねっ…んあっ♡」
「しかし酷いですな…Pのチンポ欲しさに元カレにこんな事まで…」
「ここまで堕ちると…ちよっとね…Pはいいんですか？この便姫で」
「んうう、んっ♡ボクのデカチンではこのウルマンが
丁度いいんだけどね♡…まぁ…たまには他の子も…」

ズグ
ズグ

「ズグ…待っのち…めっのちャサー」
「スウのからぁ…♡」
「他のんじゃ絶対」
「のちゅこ全部の…♡」
「のちゅわの♡」

ちゅーだっ♡

あはっ♡
チンポチンポ

「捨てないでえ…れるれるれるの♡」
「うあっ！♡…くぶ♡…てるっ！♡」
「姫はこう言うど必死になるから
カワイイですな♡
やっぱり力ナ姫は
最高のオナホですな…ぐっ♡」
「んへへえっ♡うれっ♡」
「もっの寝のこえっ♡べんべんあっ♡」

「はっ♡はっ♡…♡…♡」
「アタシって…どうやら自分が嫌ってた
承認欲求と性欲の塊みたいなの
FM便姫のクソ女だったみたい…
だからせ、こんなへんたい女わすれて
新しい彼女…見つけこ…ぬ…」

—わかってた—

——彼女の最新作DVDのパッケージではお腹が膨らみかけながら変態コスをして心底うれしそうな顔をした時に……

それを見て、もうどうにもならなげと諦めていたんだ……

この映像を見たのも……本当はただキモチイイ自慰をしたかっただけ……俺も彼女をただの『性の玩具』としてしか見れなくなってしまう……その証拠に

前回の映像では出なかつた精液が彼女とのセックス以上にらせてしまったんだから……

「んへん……♥
これからPの家で種付けするまじっ
便姫マン」に中出ししてもらいますっ
ぴーすっ♡ぴーすっ……♡
次回もよろしくね……♡
うへへ……やば……♡……♡
マジだのしめい♡」

妊娠2ヶ月
オゲレツレイヤール姫のガチンコファック







あはっ♡
よかった...♡





Best Friends...!

トコ
トコ

カチ

カチ
カチ
カチ

















■双葉夏南(●8)

B:110

W:67

H:106

B大学1年生、双葉夏南(ふたばかなん)

彼氏の清長涼平(きみながりひょうへい)とは

●校時代一緒のクラスだった。

教師も半ば見捨てていた問題児ギャルだった夏南を

風紀委員だった涼平は説教したり面倒を見ていた。

はじめはウザがっていた夏南だが涼平の誠実さと真っすぐさに惹かれ●校2年生の時に付き合うことに。

同じ大学を目指し二人とも勉強するが

最底辺だった夏南では、優秀だった涼平と同大学には行けず。

だが、それでも問題児だった時では考えられない学力になる。

エッチが好きだった夏南は涼平を度々誘っていた。

涼平は鉄の意志で断っていたが

あの容姿と体に健全な男子がかなうはずもなく

半年と経たずに体を重ねてしまう。

真面目な涼平は責任を取るつもりでいるが……

大学に入り、その容姿から多くのサークルから勧誘されるが

問題児時代バカにしていたオタク達のサークルに入ることになる。

熱心に勧誘されたせいもあるが●校時代、涼平に

「人を趣味とがてバカにしちゃいけない」と言われた事を

思い出し、体験という形で入ったが……

■双葉 夏南(●9)■

B:119

W:69

H:109

B大学に入って半年、彼女はサークルに正式加入。オタク達に「姫」と持ち上げられながらオタ活動に勤しんでいた。サークルで一番の古株である緒田草汰(おだそうた)。いやらしい目で見えてくる草汰を気味悪がっていたがアニメやコスプレを熱心に布教されコスプレイヤーに…更にコスプレ画像をSNSでアップされバズる。

そのまま草汰達に乗せられドンドン過激なコスに…オタク達から誉められまくりエロい目で見られることが興奮と快感になってからはエッチ好きだった夏南は草汰に体を許してしまふ。草汰は童貞だったガ体の相性は抜群。余りのキモチ良さに何度も浮気をしてしまつた上に草汰がらもらったチャーカーを常に身につけるように…

…涼平とは5月のデートを最後に連絡を絶つ…

そのままサークルでエロコス活動を続ける。サークルの男達ともシテいるガ生を許していたのは草汰だけ。エロコスイベントで草汰のプロデュースでスケベDVDを売ると一瞬で完売、それからというもの承認欲求と変態性欲を満たしてくれる草汰に依存してしまひオゲレツプレイをしまくる下品エロコスレイヤーとして、どんどん堕ちていくが…

草汰と一緒に暮らし、毎日の様に変態セックスをしても自分に付き合ってくれる上、サークルのオタク達の玩具にされることも了承している草汰からますます離れられなくなっていき今ではサークルメンバーに『便姫』の相性で呼ばれるほどの変態女に。

